

道 徳 科 学 習 指 導 案
主題名「公平な心」内容項目 C－(12) 公正、公平、社会正義

令和 5 年 10 月 4 年 指導者 金井智之

I 題材の構想

1 価値観

集団や社会において公正、公平にすることは、私心にとらわれず誰にも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることであると考えます。

中学年の児童においては、誰に対しても分け隔てをしないで接することの大切さを理解できるようになる。しかし、自分の気心の知れた仲間を優先することに終始して、自分の好みで相手に対して不公平な態度で接してしまうことも少なくない。特に、相手に他者よりも目立つ特性がある場合に、偏った見方をしたり接し方をしてしまうたりすることが起こりやすい。

そこで、無意識にしている偏ったものの見方や考え方に気付き、それを改善し、誰にでも公平に接しようとする心情を養うことが大切となってくる。

2 児童観

研究協力校の 4 年生は、学習面や行動面で苦手な活動がある友達のことを手助けするなど、受容的な態度をとれる児童が多い。一方で、友人関係が固定化してきて、特定の友達と親しくする児童が増えてきている。授業の場面でも、親しい友達を優先的に交流活動の相手に選ぶ姿が見られる。また、自分とは異なる特性をもつ相手に対して、無意識のうちに不公平な態度をとってしまうたり、交流すること自体を避けようとしたりする児童がいる。

このことから、本授業を通して、自分自身が無意識のうちに相手に対して偏った見方や接し方をしていることがあるかもしれないということに気付かせる。その上で、誰に対しても分け隔てなく公平に接しようとする心情を育てたい。

3 教材観 教材名「学級会」（オリジナル教材）

わたし（主人公）は、学級会の司会を務めることになり、うまく話を進められるよう、やる気十分で学級会に臨む。しかし、スムーズに話を進めようとするあまり、発言力のある友達や気心の知れた友達を優先的に指名してしまう。特に、普段落ち着かない様子があるトモ君については、大事な場面において適切な発言はできないと決めつけていた。話はスムーズに進行し、うまく司会ができたと思っていたのだが、学級会后に、適切な発言はできないと決めつけていたトモ君が素晴らしい考えをもっていたことに気付き、自分の学級会における進行の仕方から自分自身の考え方について振り返るというあらすじである。

本教材は、主人公が二つの考えの間で葛藤した点を話し合うことによって、偏った見方や接し方に気付くことができるオリジナル教材である。教材の中では、落ち着きがない様子を見せる児童の前向きな様子も表現している。主人公が司会の仕方について振り返る場面において、話がうまく進むことを優先することと、公平に指名することのどちらに共感するかを議論することで、相手に対して偏った見方や接し方をしてしまうことがあることに気付き、それを改善して誰にでも公平に接しようとすることのよさについて考えることができる教材となっている。

4 研究との関わり

これからの共生社会を担う子供たちを育成する上で、小学校段階で多様な個性を尊重し合い、互いに支え合っている資質・能力を身に付けていくことは必要不可欠である。支え合いというのは、一方が支える側、もう一方が支えられる側という関係ではなく、互いが尊重し合い、それぞれが能力を発揮できる関係で生まれるものである。本研究では、よりよい人間関係の形成について考える学級活動と、目に見えない大変さがある児童が登場するオリジナル教材を用いた道徳科の授業を中心とした授業プログラムを活用する。事前に行う学級活動で、「障害の有無に関係なく、誰にでも得意・苦手がある」ということに気付き、その気付きを基にして、本時でどのような相手でも分け隔てをしない公平な行動について考えることで、誰とでも個性を尊重し合おうとする心情が養えると考えます。

II 本時の学習

- 1 **ねらい** 「わたし」がよりよい学級会の司会の仕方について振り返る場面で、「わたし」の心の葛藤について話し合うことを通して、どのような相手でも分け隔てなく公平に接しようとする道徳的心情を育てる。

2 展 開

★ICT活用に関する事項

<p>主な学習活動と発問 ○：基本発問 ◎：中心発問 ◇：補助発問 S：予想される児童の反応</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ※プログラム手引書にて詳細を解説</p>
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童アンケート」の結果を確認する。 <p>S：自分と同じ性別や普段よく遊ぶ人と交流したいと思う人が多いのだな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの少数派の意見を取り上げて話し合い、本時のめあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><めあて> 公平にせつするために大切なことは何だろう</p> </div> <p>S：特別扱いしないこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が主体的に本時で扱う道徳的価値についての問題意識がもてるように、アンケートの「その人と交流しようと思った理由」を取り上げ、多様な考えがあることに気付かせる。 ○児童が多様な考えをもつきっかけとなるように、「相手の好き嫌いで接し方が不公平になっていることはないかな」と問い掛ける。 ○授業後に自らの考えの変容に気付けるように、めあてについての考えを記入させる。
<p>2 教材文の範読を聞き、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(25分)</p> <p>○「わたし」は、学級会の司会を行うことについてどのように思っていたでしょう。</p> <p>S：がんばろう。やる気十分。</p> <p>○学級会が終わって、わたしはどう感じていたでしょう。</p> <p>S：うまくできた。</p> <p>○学級会が終わって、トモ君と友達の会話を聞いた後、わたしはどのように思ったでしょう。</p> <p>S：ショック。</p> <p>◎「学級会の司会の仕方について振り返った」時の「わたし」はどのようなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」は、話合いの進行を重視することと公平に指名することのどちらが正しかったのか葛藤していることを確認する。 ・ICT等で進行重視と公平重視のどちらに共感するか立場を表出し、理由をワークシートに記入し、全体で話し合う。(例：心情メーター) <p>【★共有】 (進行重視の意見)</p> <p>S：トモ君は一度指名した時に、ちゃんと発表できなかったのだから、スムーズに話合いを進行したかった「わたし」の気持ちが分かる。</p> <p>(公平重視の意見)</p> <p>S：普段の様子から、トモ君がちゃんと発表することはできないと決め付けていた。</p> <p>◇トモ君と前から仲がよかったり、普段から真面目な姿を見せていたりしたら、「わたし」の対応はどうなっていたと思いますか。</p> <p>S：一度ちゃんと発言できなかったくらいで指名しなくなることはなかったかも。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○中心発問で多様な考えを引き出せるように、教材文の内容を振り返ることで、教材文の前半では「わたし」は学級会がうまく進められるように、指名する相手を選んでいたことを正しいと思っていたことを児童の言葉から引き出す。 ○「わたし」の心の葛藤が視覚的に捉えられるように、基本発問を行いながら、学級会前と学級会后にトモ君と友達との会話を聞いた後の「わたし」の気持ちの変容を対比させて板書する。 ○中心発問における話合いを活性化できるように、ICT等を活用して、指名に優劣をつけることと公平に指名することのどちらの考えに共感するかを一覧表示し、自分と違う立場に着目するように言葉掛けをする。(例：心情メーター) 【★一覧表示】 ○多様な考えに触れ、それぞれの考えを深められるように、進行を重視することと公平に指名することのそれぞれに共感した理由について発表させ、同じ立場の児童に追加の考えを聞いたり、反対の立場の児童にその意見に対する考えについて聞いたりする。(※) ◎普段の行動などから相手への偏見をもち、偏った接し方をしてしまうことがあることに気付けるように、「わたし」は偏見をもってトモ君のことを判断してしまったという考えをもっている児童を意図的に指名する。 ○「わたし」がもっていた偏見に気付けるように、「わたし」とトモ君との関係やトモ君の日頃の様子が違ったときのことを問い掛け、グループで考えを共有させる。 ○まとめに向けて児童の考えが収束していけるように、「わたし」は一生懸命司会をしようとしていたことに触れ、その上で「わたし」が葛藤した点を問い掛け、相手を特別視してしまっていたことに気付かせる。

<p>3 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。（5分）</p> <p>○誰とでも公平に接するには、どういうことが大切なのでしょう。</p> <p>S：人によって対応を変えない。</p> <p>S：その人の見た目や行動だけで判断しない。</p>	<p>○道徳的価値についての考えが深まっていない児童が、考えを深められるように、中心発問で誰とでも公平に接することの重要性に気付いていた児童を意図的に指名する。</p> <p>○考えの深まりが実感できるように、導入における考えからの変容に教師が価値付ける言葉掛けをする。（※）</p>
<p>4 前時の学級活動と、本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。（10分）</p> <p>○学級活動と今日の道徳で考えたことを参考に、今までの自分、今の自分、これからの自分という視点で振り返ってみましょう。</p>	<p>◎「いろいろな人がいる」「人によって考え方を変えてはいけない」という考えがもてるように、前時の学級活動と本時の内容を想起してから振り返るよう促す。</p>
<p>〈振り返り〉</p> <p>S：今までは、仲よしの子とばかり接していたけど、今日の授業を受けて、いろいろな人と仲よくすごすためには公平に接することが大事だと分かった。今度からみんな同じように接してみよう。</p> <p>S：苦手は誰にでもあるのだし、見えない大変さがある人とも公平に接していきたい。</p>	

◆評価の視点

- ・発言、ワークシートの記述から、「公平に接するために、偏った見方や考え方をしないことの大切さや難しさなどを多面的・多角的に考えている」姿を見取る。
- ・発言、ワークシートの記述から、「自分の身近な人間関係について振り返り、公平に接することの大切さについて考えている」姿を見取る。

3 板書計画

<p>㊦ 公平にせつするために大切なことは何だろう。</p>	
<p>特別あつかいしないこと</p> <p>○はじまる前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんばろう ・やる気十分 <p>うまくできた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに進行 ・うまく発言できる人を優先 	<p>○公平にせつするために大切なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人によって考え方をかえない ・決めつけない <p>不公平だった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんと発表できないと決めつけ ・人によって対応がちがう

※大型モニターに、児童アンケートの結果と心情メーターを表示する。

Ⅲ 備 考

1 他教科等（道徳、自立活動も含む）との関連

<p>前時 学級活動</p> <p>ねらい：目に見えない大変さの有無に関係なく、誰にでも得意なことや苦手なことがあることに気づき、よりよい人間関係の形成に向けた考えをもつ。</p>
--



本時

2 参考文献、著作権関係等

- (1) 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領 特別の教科 道徳編 (平成 29 年告示) 解説』
- (2) 群馬県教育委員会 (2019) 『はばたく群馬の指導プランⅡ』
- (3) 水野智美 (2016) 『はじめよう！障害理解教育』 図書文化
- (4) 文部科学省 (2022) 『生徒指導提要』